



校長だより

日中丸



第18号
H30. 11. 2

日間賀中学校長
鈴木 康弘

※イラストは、本校生徒 宮地志奈さん が作成

日中祭準備

11月6日(火)に行われる「日中祭」の準備が進んでいます。今年のスローガンは「Colorful World ~日中を個性の色で満たそう!」です。10月29日(月)からの準備週間では、授業後に、学級展示の準備を行っています。1年生は「カラフル迷路」、2年生は「VS. 日中 ~世界旅行へLet's go!~」、3年生は「カラフルガイスト ~Ghost world tour~」と題して、各学年の生徒が協力しながら取り組んでいます。どんな学級展示になるのか、今から楽しみです。当日は、ぜひ、足をお運びください。



朝会より 10.22(月)

生徒発表 (10月のテーマ: 最近感謝したことについて)

坂口諒祐さん (1年)

僕が最近感謝したいことは、部活動の先生です。理由は、ボランティアで僕たちに部活動を教えてくれているからです。部活動の先生は、自分の時間をけずってまで、僕たちに部活動を教えてください。だから、部活動に来ていることが当たり前だと思てはいけないと思いました。

僕はバレー部でセッターを目標にがんばっています。トスの練習をしている時、バレー部の先生がアドバイスやコツなどを教えてくれるので、上手になるし、うれしいです。

今年は、試合に出る機会が多くあると思うので、教えてもらったことを生かしていきたいです。これからも、バレーを教えてくださいの3人の先生に感謝して、部活動に取り組んでいきたいです。

宮地将也さん (2年)

僕が最近感謝したことは、学校生活の中での助け合いです。日直の仕事と給食当番が重なってしまい、一人ではできない時などに、友達が自然にやっていたり、先生に言われなくても配布物を配ってくれたり、たくさんの協力が見られました。でも、僕も見ているだけでは何も感謝されないし、なんの協力にもなりません。だから、自分から積極的にいろいろなことをして、感謝されるような人になりたいです。

また、やる気のない人には強くあたるのではなく、優しく接してあげられるような人になりたいです。一人一人が相手を思いやれるような学校になってほしいです。

校長の話

こんな話をしました。

先週の木曜日と金曜日に京都へ出張に行ってきました。木曜日は京都市内でいろいろな学校の様子を聞き、金曜日は伊根小学校というところへ行ってきました。伊根というところは日本海側にある街で、「舟屋」で有名なところ。「舟屋」というのは船を収納する場所の上に部屋がある伝統的な建物です。この「舟屋」を見るために、毎年30万人近い観光客が訪れるそうです。

その伊根小学校で、総合的な学習の時間を見学しました。全校児童43人が体育館に集まり、3人くらいのグループに分かれて、自分たちの住む伊根について調べたことを多くの先生たちに発表しました。漁業や観光が盛んなこと、その漁業や観光を支えている人たちのこと、さらには、おいしい給食を作ってくれる調理員さんがいることなど、伊根の魅力を発表してくれました。みんな笑顔で、うれしそうに話していました。全員が「伊根が大好きだ」を話していました。でも、「伊根が大好きだ」ということは、話さなくてもその表情から分かりました。その様子を見ていて、私の頭に思い浮かんだことがあります。それは、3年生の修学旅行です。東京駅でPR活動をしていた君たちの姿を思い出しました。笑顔で、うれしそうに日間賀島をPRする君たちの姿と同じでした。「大好きな日間賀島」をPRする君たちの姿そのものでした。

自分の生まれ育った街のことを「大好き」と思えることはすてきなことです。君たちには、これからも「日間賀島が大好きだ」という思いを大切に、日間賀島や日間賀中学校のためにできることを、「やる気」をもって取り組んでほしいと思います。

朝会より 10.29(月)

生徒発表（10月のテーマ：最近感謝したことについて）

大西瑠生さん（1年）

僕が最近感謝したいことは、部活動の仲間です。僕のバレー部のポジションはリベロです。リベロは主に、サーブやスパイクをレシーブする役割です。けれど、僕は、リベロをやっているミスをしてしまう時があります。そんなときに、すぐ仲間が僕にアドバイスや励ましの言葉などを言ってくれます。だから、僕は、日々仲間のおかげで上達しています。

僕が中学2年生になったら、中学1年生にアドバイスや励ましの言葉などを言えるような人になって、それを学校生活などに生かせるようにがんばりたいです。

田中遥貴さん（3年）

僕が最近感謝したことは、親についてです。最近、僕は自分の部屋を掃除するようになりましたが、以前はすべて母がしてくれていました。自分でしてみると、意外に大変で、これをいつもしてくれていたと思うと、とても大変だったんだなと思いました。他にも、毎日ごはんを出してくれたり、洗濯をしてくれたり、いろいろなことをしてくれています。

父もそうです。いつも仕事をしてくれて、そのおかげで生活することができています。僕は今までそれが当たり前だと思って生きてきましたが、改めて考えてみると、とても幸せなことなんだなということに気づきました。

いつか、父と母に自分ができる精一杯の親孝行をしてあげたいです。

田中絵梨先生の話

こんな話をしてくれました。

今からいくつかの写真を見せます。1つ目（左）、ある日の昇降口です。2つ目（中）、ある日の体育館の靴箱です。3つ目（右）、ある日のトイレです。それぞれの写真を見て思ったことはありませんか。



はきものそろえで、有名な詩があります。長野県にある円福寺の藤本住職がつくった詩です。

「はきものをそろえると心もそろう 心がそろうとはきものもそろう
ぬぐどきにそろえておくと はくどきに心がみだれない
だれかがみだしておいたら だまってそろえておいてあげよう
そうすればきっと 世界中の人の心もそろうでしょう」

自分自身を見つめて、自分を振り返るという考えです。掃除の時間には、スリッパをきれいに並べます。どんなときでもスリッパがきれいに揃っているように、自分が脱ぐときに気をつけて、散らかっていたらそっと揃えてあげられるような人になってもらえたらと思います。

